

令和4年度奈良県子ども・子育て支援推進会議 議事録概要

●日 時：令和5年1月13日（金）14:00～15:30

●場 所：奈良経済会館

●出席者：荒井知事（会長）

遠藤和佳子委員、清川かつ美委員、栗木裕幸委員、小林奈津子委員、島本太香子委員、末松保喜委員、田中加寿子委員、中山徹委員、東川裕委員

●議 題：1 「奈良県すべての子ども健やかはぐくみプラン」の進捗状況について

2 奈良っ子はぐくみ条例実施計画「奈良っ子はぐくみアクションプラン」（案）について

●意見・質疑応答

<末松委員>

○乳児の保護事案の増加について

出生率が上昇しているということで、様々な努力が実ってきたところであり、大変良いと思う。

その反面、乳児の一時保護、緊急保護に関する事案が増加しているのが気がかりである。県において、もしその理由など示すものがあれば意見いただきたい。

○社会的養護の充実について

アクションプランでは、困難な状況にある子どもに対する支援、社会的養護の充実について謳っているが、未だ社会的養護への理解は十分とは言えない。里親制度を推進していくことについては大変良いと思う。しかし、最後の砦である児童養護施設に入所している子どもたちへの支援、例えば職員の待遇面の改善等、今ひとつ不足していると感じている。県のバックアップによりもう少し支援があれば、県民の理解促進にもつながっていくのではないかな。

<小林委員>

○保育環境の整備について

県内では保育士を募集してもなり手が不足しており、人員確保が厳しい状況。少子化で正規職員の確保が困難な中、低賃金労働の解消が課題となっている。昨年末の確定闘争で賃金3%引き上げに向けた交渉を進めてきたところである。

女性が働くうえでの労働条件の悪さ、子育てしながら仕事を続けていくことのしんどさ、といった課題がある。保育環境を整えるための支援について、アクションプランへ盛り込むことを検討するようお願いする。

<東川委員>

○社会全体で子育てを楽しむ雰囲気づくりについて

計画には「支援」「支える」という言葉が多く使用されている。国においては、「こどもまんなか」社会の実現を掲げ、こども家庭庁が発足し、出産・子育て応援交付金が創設された。

経済的支援が注目され、主流になっている一方、家庭において出産や子育てが選択されなくなっていることや、児童虐待が後を絶たないという現状において、私たちの中で、子育ての楽しさ、尊さ、素晴らしさ、責任の重さといった根本的な部分が忘れられている気がしてならない。子育ては、人間の本能であり、生き甲斐、人生の目標の一つに数えられるべきものの。

御所市では生活保護受給率が高く、世代交代してもそれが変わらない状況。親や社会のマインドが課題の大きな部分を占めており、そこを変えていく必要があると思う。子育てをしようというマインド、雰囲気づくりが今求められていると強く感じる。

<中山委員>

- 「すべての子ども健やかはぐくみプラン」（以下、「はぐくみプラン」）と「奈良っ子はぐくみアクションプラン」（以下、「アクションプラン」）の関係について

はぐくみプランとアクションプランの関係を教えてほしい。それぞれの計画で、盛り込まれている項目とそうでない項目とが異なっているのはなぜか。

はぐくみプランは国の法令に基づく全体的、網羅的なものであり、アクションプランは重点的に取り上げたものであることは理解できる。そうした両計画の位置づけについて、もう少し分かるように示した方が、誤解を招かないためにも良いのではないか。

（県回答）はぐくみプランについては、国の諸法令に基づき策定、アクションプランは、県の奈良っ子はぐくみ条例に基づき策定している。アクションプランは、子育て支援施策の中でも、特に奈良県独自で重点的に取り組んでいく内容を、対象を絞り込んだ形で盛り込んでいる。

<島本委員>

- 周産期に関する内容について

産婦人科医として出生率が上昇していることはうれしく思う。

しかし、安心して産み育てるための出産医療の環境は、コロナ禍により過酷な状況。子育てのスタートの部分である周産期に関する内容について、医療的な内容を示す必要はないのかもしれないが、アクションプランには入っていないので気になった。

- 父親の子育て参画促進について

父親の子育て参画促進を目的とした「奈良県パパ産休プロジェクト」啓発動画の作成に携

わった。この動画は、妊娠出産にかかる女性の心身の変化について、そのプロセスを医学的に説明しているもので、父親だけでなく妊婦やその周囲の方々にも観てほしい内容である。産休育休制度の内容への理解は大事であるが、子育ての本質的なところ、次の世代へつないでいくための取組であるということを知っていただけるようなきっかけになれば。

警察の方と仕事をする機会があるが、日々地域の安全安心を守る組織として、ワークライフバランスを維持することは大変だと思う。一方で、警察職員の方々は、育休取得に非常に前向きに取り組まれている。ある男性職員は、育児休暇をとること、休暇後の復帰について不安があるとおっしゃっていた。こういった不安や悩みは、私が育児期だった20年前は、女性の悩みだったが、今は男性の悩みになっているのだと気づかされた。時代の流れとともに育児に対する社会の認識が変化していると感じる。

○芸術や自然等を活用した子どものはぐくみについて

子どものはぐくみの充実のため、芸術や自然を活用していくのは良い。奈良の歴史文化がすぐそこにあって、奈良で子育てをすることは素晴らしいものだという視点をもってはぐくむことが大事だと思う。学生など若い世代にも関わってもらって、地域でお手伝いしながら子どもの居場所を作っていく、いろんな世代で子育てに関わり、次の世代に引き継いでいくという仕組みができあがれば良い。

<遠藤委員>

○ひとり親にかかる指標、取組項目等の設定について

前回会議において、奈良っ子はぐくみ条例に、その対象は子どもだけでなく、子育て家庭も含めるという視点についてお伝えしたが、丁寧に盛り込んでいただき感謝する。

アクションプランには、「ひとり親」という文言の記載がある。一方、他の資料において「ひとり親(母子世帯)」と記載されていたり、「ひとり親(母子)」と記載されていたりしている。奈良県独自の取組として母子世帯に特化した内容であれば別だが、父子世帯もいる中、ひとり親世帯全体を含めた指標、取組項目を設定いただくよう検討してほしい。

<田中委員>

○地域の多様な主体による子育てについて

子育て家庭にとって、社会的に厳しい状況が続いている。子ども家庭総合支援拠点の機能強化や、SNSを活用した子育て家庭への支援など、母親が一人で育児するという環境を改善する動きがある中、どのように育児をすれば良いのか不安に思う親もいる。困難な状況には見えない家庭でも、他者とつながりを持たず不安を抱えていることもある。地域の多様な主体による子育てへの応援につながっていくように、また、自分らしい子育てができるよう

に、寄り添い、後押しいただければと思う。

<清川委員>

○子育て家庭への寄り添い支援について

時間的、経済的な余裕がある方であっても、子育てに関する悩みを相談できる窓口が少ないというのが一番の問題点だと思う。子育ては大変だけど、楽しいことであり、親の喜びや苦しみに一緒に寄り添っていくことが私たちの使命である。近年、保護者の引きこもりなど、子育ての状況が表に見えてこない方、気づかれないように生活している方が増えてきていると感じる。私たちが力を合わせて、子育て家庭へ支援を行き届けられるよう、今一度考えていきたい。

<栗木委員>

○保護者や保育者の子育てのあり方について

アクションプランに記載されている「ゆったり子育て」は、保育者、保護者にとって非常に重要なことである。国の保育制度では、保育士は11時間労働が可能となっている。19時まで保育し、次の日また早朝から保育、といった過酷な労働環境の中で、保育士の人員確保は大変難しい。保育士も人間であるから、晴れ晴れとした気持ちで保育をしたいと思っているし、素晴らしい保育士になりたい、成長したい、そうした夢をもって励みたいところであるが、なかなかそうはいかない。また、その夢を諦めて他の道を選ぶ方もいる。

一方、保護者の方も、日常的にゆったりした子育てができる環境ではない。保育時間ぎりぎりになって駆け込んでこられ、ぐずる子どもの手を引っ張っていかれる。慌ただしい子育てを経験した子どもは、その子どもに対してゆったりした子育てができるのか。

子育てにおいて、子どもを楽しませることが親としての幸せでもある。そこは学問で習う部分ではなく、親から子へ、その時に感じたまま受け継がれていくもの。子育てとはこういうものですよ、ということを示すような内容が、今一番必要だと思う。

<荒井会長>

いろいろなご意見を頂戴し感謝する。ご意見を整理し、次につなげたい思いである。

この会議は、子育て支援について、各分野に精通した皆さんと情報を共有し、知恵を出し合うことが趣旨である。

○仕事と子育ての両立について

仕事と子育ての両立のためには、家庭の助け、地域の助け、職場の助け、それぞれの立場

で協働して助け合うようなつながりがあるといい。どのようにその仕組みを作っていくか、知恵を出し合いながら進めていきたい。

○困難な状況にある子ども、家庭への支援について

全ての困った人を助けようという目的で福祉の奈良モデル条例をつくったが、取り組みを進めていくうちに、困難な状況にある方を発見するのは大変だということが分かってきた。福祉、医療、保育、教育、経済といった分野が合わされば、地域の子育て環境が良くなるのではないかと。奈良ではどんな境遇になっても十分に生きていける環境をつくりたい。

○子育て支援に対する県の考え方について

奈良は保守的であり、これまでは、父親は働き、母親は家で子育てするといった役割分担意識が強い傾向にあった。しかし、それぞれのご家庭の状況に応じて、弾力的に役割を考える時代になってきている。

里親制度の推進や地域によるバックアップ体制の整備、自治体のセーフティネットを充実させていくということが、県の考え方である。

○子どものはぐくみの充実について

子どもは地域にとって最大の資源である。自尊心と利他心を持った子どもをどう育てるか。それを教えるだけでなく、芸術活動や文化活動、スポーツ、食事や遊びなど、子どもたち自身の様々な活動を通じて育まれていくものである。